

# 空き家を利用した高齢者の居場所づくり

**滋賀県豊郷町石畠寿会**

- 会員数 78名（男性32名、女性46名）

## 「あつたかホーム おこうさん」開設

地域のまちづくり委員会から、空き家を活用した高齢者の場づくりをしないかと誘いがあり、誰もが集う場を設けたいとの思いから、会員に声をかけました。9名の女性が賛同したことから石畠シルバーナインと名付け、責任者として男性1名も加わり10名で活動することにしました。

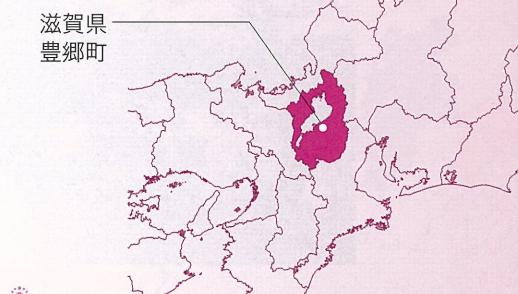
活動の拠点は「あつたかホーム おこうさん」（以下「ホーム」という）。名前の由来は、この家に百歳まで一人で生活していたステキなおばあちゃん「おこうさん」です。県の「あつ

たかホーム事業」として町づくりの拠点となる場であり、運営は石畠シルバーナイン、管理はNPO法人まちづくり委員会が行っています。

私たちは空き家に残された家財道具の後かたづけから始めて1～2週間、活動拠点として使えるように準備しました。そして平成26年3月、「ホーム」の開設セレモニーを行いました。県会議員はじめ町長や町会議員、近隣の方々50余名が列席され、立見が出る程でした。落語家の一席もあり、盛大に終ることが出来ました。

桜の季節には、地域にある巨木桜の下でお花見です。会費制で料理は「ホーム」で準備、飲めやしやべれやと時間のたつのも忘れて楽しみました。

## 地域住民に向けた活動展開



「ホーム」の入り口

また月1回位の食事会をすることにしました。まずカレーライスを作り、持ち寄りもあって賑やかな食卓に、昼間一人でいる高齢者に声をかけました。皆で食卓を開むことが何よりものご馳走となりました。

「ホーム」には県立大学生3名が下宿されていて、学生にもお手そ分けしています。始めは小声の返事だった学生たちも、交流を重ねるうちに通じ合え、今ではまるで母親気分で接しています。

## 高齢者に向けた活動

も頑張っております。「ホーム」の敷地千坪程に黒豆や玉ねぎを植えました。草取りや土かげと大変ですが、その分収穫が楽しみです。

キヤラバンメイトによる寸劇や話し合いが行われ、集まつた26名の90%以上が理解できたと言われました。「ホーム」に立ち寄ることで、少しでも認知症予防の手伝いになればいいと思います。

高齢者の交流会は51名が参加しました。会費は200円、献立は皆で相談しながら、季節の材料や家にある野菜を取り入れ、また昔懐かしい品も考えながら決めました。大勢の食事づくりは大変でしたが、皆さんに喜んで戴きました。このような集いにはいつも懐かしい童謡や唱歌などを皆で大きな声で歌います。大声を出すことは、認知症防止にもいいらしいですね。

その後も、敷地にある木で干柿づくり、黒豆や玉ねぎの収穫など、忙しくも楽しい作業をおしゃべりしながら行っています。

活動を開始して、私たちは時にはぶつかり合いながら試行錯誤を重ね、いざとなると力が出るものだと感じています。地域みんなで、健康な老後を維持できるように頑張っていきます。

11月には認知症サポーター育成講座を開きました。



月に一度の食事会



黒豆づくり

ターザ職員と認知症サポーター育成講座を開きました。

（副会長 西山順子）

